

プロジェクトメンバー研究業績一覧（2005年4月～12月10日）

池上 忠弘

講演

「ダンテと中世ヨーロッパ文学」、第16回比較舞踊学会（特別講演「ダンテの『神曲』における舞踊について」コメンテーター）。2005年11月6日。

植竹 朋文

国際会議

Uetake, T., Shinozawa, Y. and Takao, S. : IS-BoardII: The bulletin board system to support information sharing for information education, 11th International Conference on Human-Computer Interaction (HCI2005)、CD-ROM、2005年7月。

学会発表

1. 竹村憲郎、植竹朋文、「大学入試における教科「情報」の導入と課題－専修大学経営学部の事例を中心に－」、『日本情報教育開発協議会第1回全国大会講演論文集』、日本情報教育開発協議会 (JADIE)、pp. 111-114。2005年6月。
2. 大曾根匡、植竹朋文、竹村憲郎、「「情報」の基礎的内容に関する理解度の高校生と大学生との比較」、『日本教育工学会研究報告集 JSET05-5』、日本教育工学会、pp. 41-44。2005年7月。
3. 植竹朋文、竹村憲郎、大曾根匡、渡辺展男、渥美幸雄、「大学入試における「情報」の導入について」、『私立大学情報教育教会 大学情報化全国大会 予稿集』、私立大学情報教育教会、pp. 182-183。2005年9月。
4. 篠沢佳久、植竹朋文、「情報教育のための電子掲示板システムにおけるコミュニティを活性化させる機能の提案」、『グループウェアとネットワークサービス研究会研究報告集2005-GN57』、情報処理学会、pp. 1-6。2005年9月
5. 新井範子、植竹朋文、「ネットワーク分析による製品カテゴリー化の試み」、『日本社会心理学会第46回大会予稿集』、日本社会心理学会、pp. 474-475。2005年9月。
6. 篠沢佳久、植竹朋文、「授業の補佐的役割を持つ電子掲示板上のコミュニティの分析」、『経営情報学会2005年秋季全国研究発表大会予稿集』、経営情報学会、pp. 382-385。2005年11月。

小川 浩

講演

「古英語研究を考える——一つの視点」、日本中世英語英文学会研究助成委員会第6回セミナー、青山学院大学。2005年10月9日。

唐澤 一友

書評

“Marc C. Amodio and Katherine O’ Brien O’ Keeffe (eds.), *Unlocking the Wordhord: Anglo-Saxon Studies in Memory of Edward B. Irving, Jr.* University of Toronto Press, 2003. x + 359 pp.” 『英文學研究』第82巻、230-35頁。2005年12月。

口頭発表

1. 第127回東京都立大学中世英語英文学研究会、「古英詩 *Menologium* について」 2005年11月12日。
2. 第21回日本中世英語英文学会全国大会、「古英詩 *Menologium* の構造と性質について」 2005年12月3日。

篠田 勝英

論文

「武勳詩—「声」から「文字」へ」、『口承文学の世界』（白百合女子大学言語・文学研究センター編「アウリオン叢書03」春田 節子 責任編集）、弘学社、pp. 53~65。2005年7月1日。

中尾 佳行

著書

1. 原野 昇、水田英美、山代宏道、中尾佳行、地村彰之、四反田 想共編『中世ヨーロッパにおける排除と寛容』、溪水社。（「クリセイデ像の変容にみる排除と寛容」pp. 125-55を執筆）2005年9月。
2. Harano Noboru, Mizuta Hidemi, Yamashiro Hiromichi, Nakao Yoshiyuki, Jimura Akiyuki, Shitanda So. eds. 2005. *Exclusion and Tolerance in Medieval Europe—Proceedings of International Research Conference 23-24 March 2005 Hiroshima University*. (Nakao, Yoshiyuki. “Exclusion and Tolerance in Cirseyde/Cresseid/Cressida”, pp. 15-23) 2005年9月。

論文

“Chaucer’s *Gentil* with a Focus on Its Modal Implication”. 2005. Jacek Fisiak and Hye-Kyung Kang, ed. *Recent Trends in Medieval English Language and Literature in Honour of Young-Bae Park Vol. I*. Seoul: Thaeaksa, 321-45. 2005年6月。

口頭発表

1. Symposium: Approaches to Style; An Approach to Chaucer’s Style: With Special Reference to *The Structure of Chaucer’s Ambiguity* (Nakao, 2004, Shohakusha), The 46th Summer Sminar of the English Research Association of Hiroshima. 2005年7月30日。
2. “A Crux in *Troilus and Criseyde*: ‘syn I moste on yow triste’ (3.587), SHELL (The Society of Historical English Language and Linguistics International Conference 1-3 September 2005, Chiba University) A Plenary paper. 2005年9月2日。
3. 「教育学部学生のための英語史——言語の「発達」から学習の「発達」へ」シンポジウム 『日本における英語史教育——問題と課題』英語史研究会第14回大会、九州大学、2005年9月24日。

4. 「「尼僧院長の話」に見るチョーサーの死生観——少年殉教と感情に訴える表現」、公開シンポジウム「中世ヨーロッパにおける生と死」、広島大学中世ヨーロッパ研究会。2005年11月24日。

福島 治

An Etymological Dictionary For Reading Dante's The Divine Comedy. Vol.3 Paradiso by Osamu Fukushima ; Shumpusha Publishers. 2005年9月。

松下 知紀

学会発表

「後期中英語の頭韻詩と脚韻詩における詩的許容」、日本英文学会第77回大会シンポジウム「英詩の韻律と言語理論」、日本大学文理学部。2005年5月22日。

濱松 純司

著書

「コアレックス英和辞典」、旺文社。執筆担当。2005年10月。

論文

“A Note on Clausal Complements of Nouns,” 『言語研究の宇宙—長谷川欣佑先生古希記念論文集 (The World of Linguistic Research - A Festschrift for Kinsuke Hasegawa on the Occasion of his Seventieth Birthday)』、pp. 29-37、開拓社。2005年9月。

学会発表

シンポジウム「副詞研究の過去と現在」講師、近代英語協会、千葉大学。2005年5月。

長谷川 宏

論文

“Reflexive Binding as Agreement and its Interactions with the Phase System,” 『言語研究の宇宙—長谷川欣佑先生古希記念論文集 (The World of Linguistic Research - A Festschrift for Kinsuke Hasegawa on the Occasion of his Seventieth Birthday)』、pp. 53-69、開拓社。2005年9月。

平田 一郎

学会発表

日本言語学会第130会大会「完了助動詞の選択：中古日本語の be 動詞文」。2005年6月12日。

論文

“A Note on the Movement Analysis of Control,” *English Linguistics* 22, 406-411. 2005年11月。

三浦 弘

著書

『英語音声学辞典』（共著、日本英語音声学会編）、成美堂、2005年11月3日。

論文

1. 「日本語調音の構えと英語子音の円唇化」、『英語教育音声学と学際研究』、pp. 81-85、日本英語音声学会中部支部、2005年10月8日。
2. 「日本語アクセントの表記法について—実験音韻論的接近」、『専修人文論集』第77号、pp. 31-43。2005年10月29日。
3. 「IPA 利用の勧めと発音指導の注意点」、『英語教育』第54巻10号、p. 18、大修館書店。2005年11月15日。
4. 「アルファベットと IPA」、『英語教育』第54巻10号、p. 30、大修館書店。2005年11月15日。

山腰 京子

学会発表

‘Scrambling and Children’s Interpretations of Scope Interactions.’ A poster presented at GALA2005 (Generative Approaches to Language Acquisition), University of Siena. 2005年9月2日。